



世界史 16 資料 創世記 3

第四十一章(ヨセフのエジプト首相就任)

それでパロはヨセフに話した。「夢の中で、私はナイルの岸に立っていた。 見ると、ナイルから、肉づきが良くて、つやつやした七頭の雌牛が上がって来て、そのあとから、弱々しい、非常に醜い、やせ細ったほかの七頭の雌牛が上がって来た。---私は呪法師に話したが、だれも私に説明できる者はいなかった。」

ヨセフはパロに言った。「七頭のりっぱな雌牛は七年のことで、そのあとから上がって来た七頭のやせた醜い雌牛は七年のことで、それはききんの七年です。---パロは、国中に監督官を任命するよう行動を起こされ、豊作の七年間に、エジプトの地に、備えをなさいますように。この地がききんで滅びないためです。(A)」

このことは、パロとすべての家臣たちの心になかった。パロはヨセフに言った。「あなたのように、さとくて知恵のある者はほかにいない。あなたは私の家を治めてくれ。私の民はみな、あなたの命令に従おう。」

出エジプト記 (ユダヤ民族のエジプトからの脱出)

第一章

さて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民は、われわれよりも多く、また強い。さあ、彼らを賢く取り扱おう。」「生まれた男の子はみな、ナイルに投げ込まなければならぬ。女の子はみな、生かしておかなければならぬ。(B)」

第二章(モーセの誕生):

さて、レビ(ユダヤの一部族)の家のひとりの人がレビ人の娘をめぐらした。女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた。しかしもう隠しきれなくなったので、パピルス製のかごを手に入れ、それに瀝青と樹脂とを塗って、その子を中に入れ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた。--パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。--彼女(侍女)はその子をあわれに思い、--その子が大きくなったとき、女はその子をパロの娘のもとに連れて行った。その子は王女の息子になった。(C) 彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から、私がこの子を引き出したのです。」と言ったからである。

第六章

神はモーセに告げて仰せられた。「わたしは主である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに、全能の神として現われたが、主という名では、わたしを彼らに知らせなかった。またわたしは、カナン(乳と蜜の流れる土地)の地、すなわち彼らがどまった在住の地を彼らに与えるという契約を彼らに立てた。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であり、あなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出す者であることを知るようになる。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地に、あなたがたを連れて行き、それをあなたがたの所有として与える。」(D)

第十四章

民の逃げたことがエジプトの王に告げられると、---パロは戦車を整え、自分でその軍勢を率い、えり抜きの戦車六百とエジプトの全戦車で---バアル・ツェフォンの手前、ピ・ハヒロテで、海辺に宿営している彼らに追いついた。そのとき、モーセが手を海の上に差し伸ばすと、主は一晩中強い東風で海を退かせ、海を陸地とされた。それで水は分かれた。そこで、イスラエル人は海の真中のかわいた地を、進んで行った。(E)水は彼らのために右と左で壁となった。エジプト人は追いかけて来て、パロの馬も戦車も騎兵も、みな彼らのあとから海の中にはいつて行った。モーセが手を海の上に差し伸べたとき、夜明け前に、海がもとの状態に戻った。水はもとに戻り、あとを追って海にはいつたパロの全軍勢の戦車と騎兵をおおった。残された者はひとりもいなかった。----エジプトの地を出たイスラエル人は、第三の月の新月のその日に、シナイの荒野にはいつた。--主がシナイ山の頂に降りて来られ、主がモーセを山の頂に呼び寄せられたので、モーセは登って行った。--

第二十章(十戒)

それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた。

「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。

あなたには、わたしのほかに、なにもものをも神としてはならぬ。(F)

あなたは、自分のために、偶像を造ってはならぬ。それらを拜んではならぬ。それらに仕えてはならぬ。(G)

あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎む者には、父の罪を子に報いて、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。(H)

あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならぬ。主は、御名をみだりに唱える者を、罰せずには

おかない。

安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。しかし七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。--それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。

殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。

あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。

あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

第三十一章

「これは、あなたがたにとって聖なるものであるから、あなたがたはこの安息日を守らなければならない。これを汚す者は必ず殺されなければならない。この安息中に仕事をする者はだれでも、その民から断ち切られる。」(I)

レビ記 (レビ族に託された宗教的、民事的法規を収めたもの)

第十七章

「また、イスラエルの家の者、または彼らの間の在留異国人のだれであっても、血を食べるならば、わたしはその血を食べる者から、わたしの顔をそむけ、その者をその民のうちから断つ。(J)なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。」

第二十六章

「また、もしあなたがたが、わたしに反抗して歩み、わたしに聞こうとしないなら、わたしはさらにあなたがたの罪によって、七倍も激しくあなたがたを打ちたたく。(K)あなたがたから子を奪い、あなたがたの家畜を絶えさせ、あなたがたの人口を減らす。こうしてあなたがたの道は荒れ果てる。」

ヨシュア記 (「約束の地」カナン(乳と蜜の流れる土地)への侵入・破壊・征服の記録)

第一章

さて、主のしもべモーセが死んで後、主はモーセの従者、ヌンの子ヨシュアに告げて仰せられた。

「わたしのしもべモーセは死んだ。今、あなたとこのすべての民は立って、このヨルダン川を渡り、わたしがイスラエルの人々に与えようとしている地に行け。」

第六章(イェリコの聖絶)

その七度目に祭司たちが角笛を吹いたとき、ヨシュアは民に言った。「ときをあげなさい。主がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ。この町と町の中のすべてのものを、主のために聖絶しなさい。」

そこで、民はときをあげ、祭司たちは角笛を吹き鳴らした。民が角笛の音を聞いて、大声でときをあげるや、城壁がくずれ落ちた。そこで民はひとり残らず、まっすぐ町へ上って行き、その町(イェリコ)を攻め取った。彼らは町にあるものは、男も女も、若い者も年寄りも、また牛、羊、ろばも、すべて剣の刃で聖絶した。(L)

第八章(アイの聖絶)

主はヨシュアに仰せられた。「恐れてはならない。おののいてはならない。戦う民全部を連れてアイに攻め上れ。見よ。わたしはアイの王と、その民、その町、その地を、あなたの手に与えた。あなたがエリコとその王にしたとおりに、アイとその王にもせよ。」

イスラエルが、彼らを追って来たアイの住民をことごとく荒野の戦場で殺し、剣の刃で彼らをひとりも残さず倒した後、イスラエルの全員はアイに引き返し、その町を剣の刃で打った。その日、打ち倒された男や女は合わせて一万二千人で、アイのすべての人々であった。ヨシュアは、アイの住民をことごとく聖絶するまで、投げ槍を差し伸べた手を引っ込めなかった。(M)こうして、ヨシュアはアイを焼いて、永久に荒れ果てた丘とした。今日もそのままである。ヨシュアはアイの王を、夕方まで木にかけてさらし、日の入るころ、命じて、その死体を木から降ろし、町の門の入口に投げ、その上に大きな、石くれの山を積み上げさせた。今日もそのままである。